

## 文法指導にアクティブ・ラーニングを取り入れた英語授業

### Active learning for English grammar learning

北野 功祐 / 松坂 伸彦

早稲田大学教育学研究科 / 芝中学・芝高等学校

#### Abstract

This paper reports how to promote students' "active learning" in teaching grammar. In a certain class at a high school, the topic to be learned was the subjunctive mood and, instead of giving formal instruction, we the teachers directed the students to make worksheets which summarize the grammatical points. By using their classmates' worksheets, the students reviewed important points on the subjunctive mood without teachers' instruction. After that they chose by vote some worksheets which they thought were well written from some points of view. The voting motivated the students to make better worksheets. And from the result of the voting, we the teachers got information about what kind of elements were required for the teaching of grammar in the students' judgment. In this paper, we will report the procedure of the class and discuss advantageous points of this kind of learning based on what was observed through the practice.

キーワード: アクティブ・ラーニング, 教えない授業, 文法学習

科目名	英語表現 I
対象者とクラス人数	高校1年生 7クラス 287名
学習の目標	英文法の系統的学習を中心に英語の4技能を向上させる。文法に関しては、大学入試を目標とした来年度以降の学習においても重要となる英文法の基礎力を高校1年次に身につけることを目指す。

#### 1. はじめに

本稿は、山本崇雄著『はじめてのアクティブ・ラーニング！英語授業』（学陽書房）において文法の学び方として紹介されていた「生徒がつくるワークシート」づくり（p.50-53）を、文法指導の一環として実際に行った様子を報告するものである。

本稿ではまず、山本氏の著書を基に「英語の授業におけるアクティブ・ラーニング」の定義や概念を確認した上で、実際に私たちが行なった実践の様子を紹介する。

## 2. アクティブ・ラーニングの英語授業

### 2.1 英語の授業におけるアクティブ・ラーニングとは何か

山本氏は、英語の授業におけるアクティブ・ラーニングの活動を以下のように定義している。

- ① 英語の「学び方」を能動的に英語で学ぶ活動
- ② 英語を使って多様な考え方を能動的に学んだり、自分の考えを表現したりする活動  
(p.17)

さらに山本氏は、このように定義される活動の目的は、生徒たちを生涯にわたって英語を学び続ける「自立した学習者」へと育てることであると述べている。そのためにも、英語という言葉そのものだけでなく、ものの考え方や、英語の学び方も授業を通して学ばれべき対象なのだということが本書を通して強調されている。

上記の目標を達成するために、山本氏がアクティブ・ラーニングを通して目指すものは「教えない授業」である。それは、教師によるコントロールを段階的に減らし、生徒たちが自主的に取り組む機会を積極的に与えるものであり、時には生徒同士で教え合い、互いに学び合うような授業である。山本氏は、そのような環境で主体性は育まれると考えている。

### 2.2 生徒が作るワークシート

このような「教えない授業」を目指すという考えを基に紹介されたのが「生徒がつくるワークシート」である。山本氏の例では、対象は中学生であった。教員は生徒たちに、そのレッスンで学んだことについて、配布された白紙に自由にまとめるよう指示していた。その際、一番よくまとまっているものを全員に印刷して授業で使うという旨も生徒たちに伝えていた。白紙の紙に一つの文法項目をまとめるという作業は、一見大変なように思われるが、山本氏は教科書の解説ページ等を自分なりにまとめれば誰でもそれなりにワーク

シートを完成させることができるとしている。また、生徒たちが作ってきたものである以上、間違っただけの情報やスペルミス等があることは避けられないので、そういったものは印刷前に作成者に修正させているという。作ってきたワークシートを基に、作成者に解説をさせるとより主体的な学びが可能になり、見守っている教員は適宜補足をする程度で文法学習が完了するとのことであった。

私たちは、このワークシートづくりを高校1年生の「英語表現Ⅰ」で実践してみることにした。その際、本校が中高一貫校であり、高校1年次で扱うべき文法項目は中学で学習済みであることを考慮し、本校独自の取り組みも取り入れた。次章では、その実践の様子を報告する。

### 3. 授業実践

#### 3.1 方法

先ほど紹介したように、山本氏の例ではワークシートづくりは復習の意味も兼ねて行われ、生徒たちが学んだことを自由にまとめるよう指示がなされていた。しかし今回実践を行なった中高一貫校では、高校範囲の文法項目の一部を中学3年次に習うため、実践対象とした高校1年生は事前にある程度の文法事項が頭に入っていることが想定された。そこで、ひとつひとつの項目をていねいに説明する必要はないと考え、本実践では「自学プロジェクト」と銘打って、授業で当該項目を扱う前の予習としてワークシートづくりを取り組ませた。その際生徒たちには、(1)ワークシートの形式は自由でよいこと、(2)何を参照してもよいこと、(3)ワークシートは後ほど廊下に掲示されることの3点を伝えた。以下は手順の詳細である。

扱った文法項目：仮定法

<手順>

1. 教員は、中央に「仮定法ってなに？」とだけ書かれた横向きのA4の白紙を1枚配布する。
2. 生徒たちは、宿題として様々な資料をもとに各自でワークシートを完成させてくる。
3. 1週間後、つくってきたシートをグループ内で見せ合い、自由な感想を述べ合う。
4. 同時に、生徒がつくってきたワークシートを使いながら、当該文法項目を復習した。
5. 教員はその後、ワークシートを廊下に掲示する。
6. 生徒たちは各クラスの「優秀賞」「ユーモア賞」「イラスト賞」をマークシート形式で投票する。
7. 投票結果は教員が集計し、クラスに発表する。

3.2 実際に生徒が作ったワークシート

もし...

**If**

**仮定法** 仮定法過去? 強・願望・後悔 If only S + 仮定法過去

もし...ならば  
過去形を使う  
もし...ならば  
過去完了形を使う

【もしSがVすれば】  
SはVするたろうに  
If S V (過去) S' (would/could/might) V

【もしSが〜であれば】  
SはVするたろうに  
If S were V S' (would/could/might) V  
\* be動詞はwere  
主語がheで仮定法ではwereを使う。口語ではwasも使われる

【〜がなければ】  
〜たろう  
If S were not for 名詞 + 仮定法過去  
But for 名詞 + 仮定法過去  
Without 名詞 + 仮定法過去

【Sが〜ければいい】  
I wish S + 仮定法過去  
\* 願望内容が願望の時より後の内容の時は、would 又は could を使う

【まるで〜であるかのよう】  
as if I were ~  
\* as though S, 仮定法過去で表せる

図 1 生徒が作ったワークシート例 (1)

**仮定法**

1. ifを使った仮定法  
① 仮定法と仮定法過去  
(1) If it rains tomorrow, we will cancel the picnic.  
(2) If I had a lot of money, I would buy an island.  
② 仮定法過去  
If + S + 動詞の過去形, S' would/could/might + 動詞の形  
③ 仮定法過去完了  
If + S + 動詞の過去完了形, S' would/could/might + have + 動詞  
④ 仮定法とif not  
例) If I had taken the medicine then, I might be fine now.

2. wish (as if) 後の仮定法  
① wish  
例) I wish I knew her telephone number.  
② I wish I hadn't bought such an expensive bag.  
③ as if  
例) He talks as if he were an expert in economics.  
You look as if you had seen a ghost.  
④ 特殊な仮定法  
① were to  
if S were + to + 不定詞  
例) were to win the lottery, what would you do?  
② should  
if S should ~  
例) If he should change his mind, he would call me.

3. 仮定法とif  
① if省略  
if省略して疑問文の疑問詞をif節に相当するもし〜ifの表現  
例) but for/without  
with  
otherwise  
to + 不定詞  
U.S.に使う  
主語の省略

4. 仮定法とif not  
if it were not for ~  
if it had not been for ~  
例) it's time ~  
if only ~  
if only ~ I wish  
if only ~, 例) ~に動詞を付け加える  
If only she were here!  
= I wish she were here!

5. 仮定法とit's time  
it's time + 仮定法過去  
もう〜しなくてはならない

6. 仮定法を使った7. 仮定法表現  
① wouldを使った7. 仮定法表現  
例) Would it be all right if I sat here?  
② I wonder if ~を使った7. 仮定法表現  
疑問詞に仮定法過去  
例) I wonder if you could help me.  
現在形に仮定法過去  
例) I was wondering if I could use your phone.  
③ wonder + 仮定法過去 + hope + 不定詞を使った7. 仮定法表現

図 2 生徒が作ったワークシート例 (2)

1 私は地球を宇宙から見たい。宇宙飛行士であれたいのに。(T)	I want to look at the Earth from space. I wish I were an astronaut.	彼女にあんなことを言わなかったらよかったのに。(完⑥)	I wish I had not said such a thing to her.
2 マイクとニックが今、口論をしている。彼らがまだいい友達同士であれたいのに。(T)	Mike and Nick are quarreling now. I wish they were still good friends.	昨夜は雪がとても激しく降った。そして私は家へ帰る途中風邪をひいた。外出しなければよかった。(T)	If snowed heavily last night and I caught a cold on my way back. I wish I had not gone out at all.
3 新車を買うだけの余裕があればいいのに。(T)	I wish that I could afford a new car.	試合の前に何か食べておけばよかった。おなかペコペコだ。(T)	I wish I'd eaten something before the game. I'm starving now.
4 父が私のことを子ども扱いするのをやめてくれればいいのに。(T)	I wish my father would stop treating me like a child.		
もう少し若ければ、建築を勉強しにフランスへ行くのだけだ。(T)	If I were a little younger, I would go to France to study architecture.	もし運転手がかっと注意していたら、その事故を避けられたかもしれない。(T)	If the driver had been more careful, he might have avoided the accident.
もし彼のeメール・アドレスを知っていたら、簡単に彼と連絡が取れるのだけだ。(T)	If I knew his e-mail address, I could contact him easily.	もっと早く起きていたら、その電車に間に合ったのに。(完⑥)	If you had got up earlier, you could have caught the train.
もう少し練習すれば、君はもっと上手に中国語が話せるかもしれないのに。(T)	If you practiced more, you might speak Chinese better.	彼の助言に従っていたら、君は今ごろそんなに困っていないだろう。(完⑦)	If you had followed his advice, you wouldn't be in such trouble now.

図 3 生徒が作ったワークシート例 (3)

### 3.3 生徒の感想

今回実践した取り組みは、本校では初めてのことであったため、実践後に生徒たちに感想を自由に書いてもらった。内容は自学プロジェクトをやってみた感想や、友人の作品を観て感じたことなど多岐に渡った。以下はその一部である。

- ・みんなわかりやすかった。読み手の気持ちになって書いてあっていいと思う。
- ・説明しようとするより理解が深まった。
- ・文字として書くことで覚えやすかった。
- ・文法を確認し、勉強するいい機会になった。また、例文を書くことでアウトプットにつながった。
- ・他の単元でもこのようなことをやった方がいいと思った。
- ・絵に力を入れすぎてしまったが、文を考えたり、まとめたりすることで仮定法の理解につながった。みんなのプリントを見ることで、広く理解が深まった。
- ・もう少し仮定法の作り方について書いた方がよかったです。
- ・Aくんのレイアウトがきれいでわかりやすかった。
- ・Bの絵がうまかった。

生徒たちの感想を見ると、中学で学習済みの項目だったからかもしれないが、実際に自

分で調べて手を動かすことで「理解が深まった」という内容が非常に多かった。また、自分の作品が掲示されるということで、読み手に対して説明をするのだという意識がはたらき、仮定法について隅々まで知っておこうとしたという態度も、完成したワークシートや本人たちの感想から伺うことができた。なかにはクラスの友達の仕事を見ることで、自身のワークシートとの違いに気づき改善点を考えている生徒もいた。さらに他者の作品のよいところを見つける肯定的なコメントも見られ、このような取り組みがお互いを認め合うよい雰囲気づくりにも一役買うことができると感じた。

### 3.4 各賞を設けたことに関して

今回、本校独自の取り組みとして、生徒が作ってきたワークシートを廊下に掲示し、「優秀賞」（今回の文法事項を学ぶにあたり、特に参考になった作品）、「ユーモア賞」（構成や内容がおもしろいと感じた作品）、「イラスト賞」（挿入されているイラストが上手いと感じた作品）をマークシートによる投票で選ばせた。その結果、生徒の学びの面と教員の指導の面の双方にとりプラスであった。生徒にとっては、各賞を設けたことで生徒たちの中にモチベーションが生まれた様子が確認された。例えば、普段英語が苦手な授業に積極的に参加することがなかった生徒も、イラスト賞だけは他の友達に譲れないといった本人なりの取り組み方がみられ、各賞を設けたことで目標が生まれたようだった。

また教員にとっては、優秀賞に選ばれた作品を見ることで、生徒たちがどのようなことを文法の学習時に求めているのかがわかった。私が実践したクラスで優秀賞に選ばれたのは、文法事項の解説がほとんどなく、代わりに例文が豊富に載ったものであった。当初、私はそれほどその作品を気に留めていなかったのだが、最終的にはその作品が優秀賞を獲得した。このことは、生徒たちが豊富な例文を提供してくれたワークシートが便利だと考えていたことを示すものであり、彼らにとって文法書のように整然と説明が並んでいるものだけがよい教材ではないのだという気づきを与えてくれた。普段、最低限の例文の紹介にとどまっていた私自身の授業を見直すきっかけになったと感じている。

## 4. おわりに

本実践では、生徒が自ら文法学習のためのワークシートを作るということを行なった。また、独自の取り組みとして各賞を設けた結果、生徒たちのモチベーションを生み出すことができただけでなく、生徒たちがどのような教材を求めているのかという発見にもつながった。

今回はワークシートを作り、お互いの作品を見る中で簡単におさらいをし、掲示後に各賞を投票するだけで終わってしまったが、今後は生徒たちのワークシートを軸に授業を構

成し、場合によっては生徒たち自身がお互いにシートを用いて授業を行うような、「シートを利用した授業づくり」を教員が考え、より能動的な学びを誘発することができる授業を実践していこうと思う。

現在、文部科学省の様々な指針や各種教育実践の研究界においてアクティブ・ラーニングが徐々に求められてはいるものの、その本格的な導入はなかなか進んでいないのが実態である。生徒一人一人に学習や思考のチャンスを与え、生徒同士で互いのワークシートの評価まで行わせる本実践は、英語という枠を出て、将来の社会で求められる主体的な態度を生むきっかけになるかもしれない。本実践のように、少しずつでもアクティブ・ラーニングの要素を含んだ活動を増やしていくことができれば、徐々に自立した学習者を育てる仕組みができるのではないだろうか。

### 参考文献

山本崇雄（2015）『はじめてのアクティブ・ラーニング！英語授業』学陽書房.